

5 近世の弓聖 阿波研造 門下の三英傑

吉田先生の弓道理念を

詠われた 和 歌



この書も、私に当て書かれたもので、他のものと違い、右下に「紫花押」と、紫鳳の鳳が省略された、先生の署名がなされております。



大前『おおまえ』吉田 能安 先生（号：紫鳳）
中 『な か』安沢平次郎 先生（号：東宏）
大後『お ち』神永 政吉 先生（号：的宗）

「君が驚くような写真が見つかったので送る」という内容のお手紙と共に、私のもとへ郵送されて参りました。阿波研造門下の三英傑、吉田・安沢・神永の三先生が立ちを組まれた、誠に貴重な写真であります。巻藁射礼の頁で紹介した同門の先輩大宮様は、「この写真の先生の射は、流石にみなぎる気迫が感じられ凄い！と呻らせる」、そしてご自分が高校生の頃は、先生は70歳前後であったが、その射は「とにかくダイナミック、躍動感、大きさ、そして気迫といったものが静なる内にも溢れ出るものがあり」、そして付け加えることに「小さく、無難に纏まってしまふことをとても叱咤された。」と語っておられました。このお話から先輩の大宮様方は、「私の代よりも数倍も迫力のある、吉田先生の射を見取り稽古されたんだ。」と痛感させられ、今後私が目指し取り組むべき射に参考になった次第であります。

青森市スポーツ会館弓道場には、三先生が書かれた『真』（神永先生）、『善』（安沢先生）、『美』（吉田先生）の書が掲額されています。半切を一回り大きくしたサイズで、どの先生の書も迫力があり、運筆鋭く美事なものであります。